

◆日時： 2013年1月14日（月） 10時～14時

◆場所： 南島原市 大枝秀一さん 自宅  
：演題「ホントとウソを哲学する」

定例会のようす

脳梗塞から回復されて2年弱の大枝秀一先生の  
レクチャーです。雲仙を下りて島原半島の海を望  
む南有馬のご自宅までお邪魔しました。



ホワイトボードを前に立たれた大枝先生、このような設定になるとすっかりすぐ私たちはいつも女学生  
になれます。

哲学は物事を考える基礎

ウソはこの哲学の昔からの大きなテーマ

「人は多面的でどんな相手に自分のどこを見せるのか」を使い分けるものです。

直線的にウソとホントと 黒白に考えるのではなく、その背後にある情報を自分で集め、それを含めて  
先のウソとホントに現れている情報の質を判断する力、すなわち直線的に対して、円環的スパイラルに  
判断することが、ウソを見極め自分の生き方にプラスになる、そんな風に私の中でまとまりました。

話はヘーゲルへ。高校の授業で最も感動したのが、ヘーゲルの弁証法でした。これによると、「ウソが  
ホントに」、あるいは「ウソがホントに」変化することがある。これは時間の変化とともに判断が変化す  
るからです。

これを転化の法則「止揚」という。テーゼ（正）アンチテーゼ（反）ジンテーゼ（合）

この原則は様々あるし、使える。あの京都の「哲学の小径」で有名な西田幾多郎が著書「善の研究」で  
徹底してこの弁証法を使っていると大枝先生から紹介されました。

今年の読むべき本に加えたいと思います。

弁証法の本質にあるものは、人というものは成長できるものであること、その自分の成長を自分で測  
定すべきであるということです。それをしないから、人の評価ばかり気になる、という指摘も頷けるも  
のでした。一年の始まり方としていい日でした。

お昼は皿うどん・お寿司・お漬物・・・お腹いっ  
ぱい食べてしまいました。

つい夢中になって講義が長引いてしまい、疲れさ  
せてしまったかな。

今回は気をつけますから、また、講義お願いしま  
す！

熟した女学生より。

